

気仙沼の海岸で遊ぶ子供たちを増やすには どうしたらよいだろうか

気仙沼高校 1206A

〇序論

海で遊ぶ子供たちが減少している。しかし、気仙沼の子供たちが海の近くで生きていくための知識や、防災意識を身に付けるために、海で遊ぶ機会を増やす必要があると考えた。

〇仮説

- ① 私たちがきっかけを作る
- ② 子供たちが海に興味や親しみを持つ
- ③ **海で遊ぶ子供たちの人数が増える**
- ④ 海と生きる防災知識が身につく
- ⑤ 次世代に繋がる

〇「浜わらす」での活動

- ① 子供たちが自分の命を守り、周りを助けて行ける力を身につける。
- ② 災害や困難にあっても生きていける術、生き抜く術を学ぶ。
- ③ 地域との関わりや自然の中で過ごすことで、自分たちのまちに愛着を持たせる。

『生きる力』『生き抜く力』

〈主な活動〉

- ・キャンプ ・米づくり
- ・海の恵みシリーズ
(漁業体験・地域の特産や知識を知る・自然体験など)



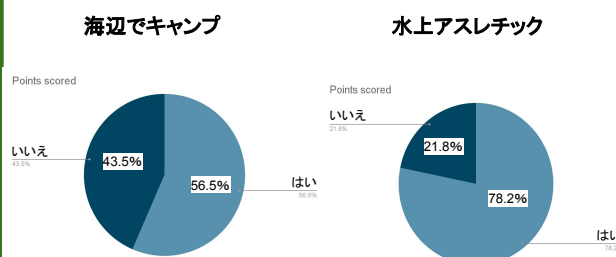
〇方法

1. 実際にNPOとして活動している「浜わらす」に話を聞く。
2. 考えたイベントの参加率を調べるためアンケートを取る。
3. そのアンケートをもとに子供が海へ興味を持てるような遊びを考える。

〇結果・まとめ

アンケート結果(classiiによる調査)

対象: 気仙沼高校全学年(有効回答78人分)



ほかに参加してみたいイベント

- ・ビーチスポーツ・海産物の出店・砂アート
- ・漁師体験・フードフェス・音楽フェス
- ・スイカ割り・スキューバダイビング・BBQ
- ・ビーチクリーン・船に乗って気仙沼一周
- ・貝殻でキャンドルづくり・宝探し

まとめ

アンケートの結果より、水上アスレチックのようなイベントをきっかけに、海で遊ぶ人数が増えると考えた。また、海で遊ぶ機会が増えれば、海の近くで生きていくための知識や、防災意識が身に付くと考えた。

〇課題[今後の展望]

- ・イベントの実行に向けての計画を立てる
- ・子供たちが楽しめるような遊びを考える
- ・幼稚園、小学校にプリントを配布する
- ・子供の支援をしているNPOと協力しプロジェクトを行う

一参考文献一

NPO法人 はまわらの団体情報Syncable
<https://syncable.biz/associate/hamawarasu2013/vision>
日本人の「海離れ」が止まらない理由
<https://www.yomiuri.co.jp/fukayomi/20180705-OYT8T50008/>

協力者

- ・宮城教育大学 准教授 Y先生
- ・NPO法人 浜わらす